聖地のこどもニュース

記切一つの認

No. **8** 2021 年 8 月



▲聖地のフランシスコ会主催 「若者のためのフランシスカンマーチ」。モレの山を背にタボール山頂で記念撮影。彼らは毎年ナザレを中心に数日間イスラエル北部 (ガリラヤ) を徒歩で 「巡礼」 し、交流を行っています。

イスラエルの有名新聞「ハアレッツ」の記事に愕然としました。コロナ禍で教育財源が確保できず、新学年を通常通り(9月1日)始められるか疑問だというのです! ワクチン接種優等生のこの国では日常生活がほぼ戻ったと報じられていたのに、デルタ株による感染拡大で、再びロックダウンの一歩手前だといいます。

子どもたちを守るには何を? 一つは「密状態」の解消ですが、そもそも多くの学校の教室が狭い。1クラスの生徒数を半分にすると倍の教員が必要に。10数万もの先生を確保できるか?! 教育の質は? 給料はどう捻出? 一方でオンラインの授業は様々な問題があり、あまり効果を上げていません。経済の落込みで物価高騰が激しく、授業料も上がっています。失業で授業料を払えない家庭がますます多く……。

長引く紛争に追い討ちをかけるウィルス感染。イスラエルでもパレスチナでも、教育現場は今、厳しい対応を迫られています。まともな生活が保証される国づくりのために、1日も早く学校が再開され、子どもたちが正しい教育を受けられるよう、心から願うものです。

井上 弘子



認定NPO法人 **聖地のこどもを支える会**



これは、JANICの「アカウンタビリティ・セルフチェック 2012」マークです。 JANICのアカウンタビリティ基準の 4分野(組織運営・事業実施会計・情報公開)について当団体が適切に 自己審査したことを示しています。

事務局 〒164-0003 東京都中野区東中野 5-8-7-502 **Email ispalejpn@gmail.com 回位 03-6908-6571**

ご支援は… 郵便振替 00180-4-88173 MA者名 「NPO法人聖地のこどもを支える会」

当法人へのご寄付は、税制優遇が受けられます。

https://seichi-no-kodomo.org

イスラエルとパレスチナ「トンネルの出口はまだ遠い!」

ヤクーブ・ガザウィ(当法人現地スタッフ)

日本の支援者の皆様、コロナ禍にもかかわらず、 お元気でお過ごしのことと思います。いつもご支援、ありがとうございます。

今日は聖地の現状を皆様にお伝えしたいと思います。ここでもこの新型ウイルスの試練が始まって1年半が経ち、さらに多くの犠牲者を出した11日間にわたるイスラエル・パレスチナ紛争の混乱も体験しました。

イスラエルではつい先日新しい政府が成立し、私たちは、コロナ禍とネタニヤフ首相からやっと解放されると思っていました。しかし数週間たった今、政府さえ替われば事態は好転すると思っていた私たちの期待は見事に裏切られました。現在、私たちはデルタ株の感染爆発に直面しています。7月末現在、感染者数は日々、2500人(イスラエルの人口は日本の1/13なので、日本に換算するとこの13倍32,500人/日になる:訳者注)、収束の見通しは全く立っていません。新しい政府は前政権とネタニヤフをおとしめることしか考えておらず、国民の信頼を失うばかりです。

イスラエルでもパレスチナでも生活苦は増しています。物価は高騰し、すべてが増税の対象です。ガソリン価格は天井知らずで、現在は1リットル205円になっています。しかも収入の減少は止まらず、イスラエルでの貧困率は劇的に急増しています。

以前は反ネタニヤフだった人々も、今では彼に帰って来てほしいと願っているほどです。彼の為政者としての豊富な経験が今は必要だと感じているのでしょう。

イスラエルとパレスチナの関係は少し改善されていると思います。イスラエルは、ホテルマネジメント、建築業、医療や保健分野で、パレスチナ人労働者の助けを必要としているからです。

新政府の外交政策についても私たちは憂慮しています。メディアによれば、何らかの理由で、オマーンがイスラエルとの「平和協定」を破棄したと伝えられていますが、明らかに極右の現政権に原因があるのでしょう。

イスラエルでは新しいジョークが流行っています。 「この国では首相になって国を治めるために力ある 優秀な政治家である必要はない、たった7議席があ ればよい!」(編集注:ベネット新首相が率いる極右 政党「ヤミナ」の議席は7つ)

現在のイスラエルの政治状況は混沌としており、極右から極左まで含む政府があって、反対勢力は右派のみです。こんな政府がどう機能するのか全く不思議です。私たちは一日も早い政権交代を願っています。

パレスチナ側でも状況が良いわけではありません。先日、パレスチナ人活動家が同胞に暗殺されました。理由は、彼がアッバス議長とその一族がパレスチナの財源を私有化していること、さらにイスラエルがエルサレム在住のパレスチナ人に投票を許可しないという理由で、本年5月に予定されていた総選挙を恣意的に延期したことを批判したからだと言われます。とにかく一般のパレスチナ人の現指導者に対する信頼は全く失われてしまいました。

私は職場の教会事務所で、コロナの影響で困窮にあえぐ人々に日々接しています。彼らは、子どもの学費、水道光熱費や家賃を払うこともできず、どのように生活を立て直せるのかの希望も見えていません。(編集注:聖地では、フランシスコ会が貧しい人々を援助しようと努力している。)

特にイスラエル国籍のアラブ人の貧困率が80%にも達し、日々の生活必需品さえも入手困難な状態を見て、私は、「絶望した」とは言いませんが、人々の窮状は危機的状況にあると言わざるを得ません。彼らはほんとうに助けを必要としている。現政権はまもなくロックダウンを宣言するでしょうが、それでもほとんどの人々には補助金も出さないと公言しています。高い失業率も心配です。

最大の試練にさらされているのは、イスラエル・パレスチナ経済の20%を占める観光業の人々でしょう。残念ながら、旅行会社やバス会社、観光客を相手にするホテル、商店、レストランなどの倒産があとを絶ちません。多くの家族が故国を捨てて外国に活路を見出したいと考えているのも気がかりです。

教育に関して言えば、現在は夏休みですが、いつ、どのような形で再開するかは不透明です。

現在人々の苦しみを増大させているのは、あらゆる点で未来を見通せないことではないでしょうか?

日本の支援者の皆様、様々な困難の中で、明るい 希望の光を何とか見出したいと願っている聖地の 人々、特に子どもたちや若者たちのために祈って下 さい。そして彼らが祖国に住み続け、未来を切り開いていくことができるよう、引き続き温かいご支援をお願いいたします。

聖地の教育支援への皆さまのご支援をお待ちしています!

オンライン講演会 出川展恒氏

『アメリカ、イスラエル、イランの政権交代で中東はどう変わる?』

(NHK解説主幹)

毎年お願いしている出川展恒氏による講演は、今年 も新型コロナウイルスの感染が収まらないため、インターネットによるオンライン形式となりました。概 要をお伝えします。

トランプ時代の負の遺産

今年はアメリカでバイデン新政権が誕生、イスラエルでは2009年から首相の座に居続けたネタニヤフ氏が退陣、イランの大統領選では国際協調派に代わって保守強硬派の選出、という変化が生まれ、中東情勢にとって重要な年となりました。

パレスチナ問題

アメリカの新大統領バイデン氏は去年の選挙中から、トランプ氏の政策をやり直すと言ってきました。パレスチナ問題では「二国家共存」による解決を目指すということですが、以下に示すトランプ時代の負の遺産があまりに重く、難しいと言わざるを得ません。

2017年、国際的には、イスラエルの首都として 認められていないエルサレムを首都と認定、翌年に は大使館をテルアビブからエルサレムに移転したほ か、パレスチナ支援をストップ。ヨルダン川西岸へ のユダヤ人入植は国際法に違反しないと明言し、シ リア領だったゴラン高原のイスラエルによる一方的 併合を容認。去年1月には極端にイスラエル寄りの 独自の中東和平案を発表し、夏以降はアラブ諸国 の対イスラエル国交正常化を仲介。

パレスチナ側はトランプ退陣、バイデン政権誕生にそれなりの期待をしています。 そのバイデン氏は



ヨルダン国王との電話会談で「二国家実現」で一致していますが、大使館をテルアビブに戻すとは考えていないし、パレスチナ問題解決の具体的戦略は用意していないように見えます。コロナ禍からの経済回復という国内問題に追われ、外交では対中国、中東では対イランに重点を置き、イスラエルによる西岸の併合や入植地拡大をやめさせるのに実効性のある行動をとるか疑問です。

イスラエル、パレスチナ間には領土確定、東エルサレムの帰属、入植地の扱い、難民の扱いなどの障害が満載で、未解決のまま放置すると、ふとしたきっかけで騒乱を招きかねません。

イラン核合意

対イランの焦点は「核合意」です。2015年7月にイランと米・英・仏・独・ロシア・中国の6カ国が結んだもので、イランが核開発を大幅に制限する見返りに、6カ国は経済制裁を段階的に解除するとし

ていました。ところがトランプ氏は18年5月に合意から一方的に離脱し、厳しい経済制裁を科したのです。イランは合意義務に一部反して濃縮ウランの濃度を引き上げ、経済制裁の解除を迫っています。バイデン政権は合意復帰の姿勢を示しているものの、イランが要求する制裁の全面解除には応じていません。

ガザ戦争

今年5月にイスラエルとイスラム組織ハマスが衝突し、パレスチナ側に256人、イスラエル側に13人の犠牲が出ました。ハマスによるロケット弾攻撃、イスラエルによるガザ空爆という交戦のきっかけは、東エルサレムにおけるパレスチナ人民家の接収問題やイスラム教聖地での衝突です。ガザを実効支配するハマスを、パレスチナ自治政府のアッバス議長はコントロールすることができず、ハマスを「テロ組織」に指定しているアメリカも交渉できず、結局エジプトの仲介で停戦が実現しました。

空爆で破壊されたガザの再建は難題です。長く続くイスラエルによる封鎖で人道危機やコロナ禍の拡大が深刻で、パレスチナ内部の対立を解消して自治政府を立て直すことや封鎖の解除が課題となります。

反ネタニヤフ同盟の連立

イスラエルの新政権は極右から中道・左派、アラブ政党まで含む8党から成る前代未聞の連立内閣で、首相になったのは極右のベネット氏(49)。ユダヤ民族至上主義の宗教的右翼で、西岸などは「神から約束された地」と言っています。政界入りした時は、ネタニヤフ氏の側近で、連立政権で国防相なども務めましたが、西岸併合を強硬に主張する立場からネタニヤフ首相と袂を分かちました。

新政権は「反ネタニヤフ」だけでまとまった連立と言え、極右政党「ヤミナ」(7議席)のベネット代表が前半2年間の首相を務めます。後半2年の首相は国会でネタニヤフ氏のリクード(30議席)に次ぐ中道の第2党「イェシュ・アティッド」(17議席)のラピッド党首が務める約束です。ラピッド氏は、宗教的制約に批判的な世俗派の元ニュースキャスター。大統領から組閣を指示されながら、ヤミナを連立に引き込むためベネット氏に最初の首相の座を譲った

のでした。

ベネット新首相は西岸の60%併合を主張し、「パレスチナ国家」に強く反対していることから、和平交渉の再開は不可能とみられています。ただし「二国家共存」案を支持する左派やアラブ政党も参加していますから、対立する課題は避けて当面は経済政策に重点を置くとしています。とはいえ、内部対立ですぐにも崩壊すると見られている内閣です。ネタニヤフ氏は汚職裁判の被告でありながら、国会の第1党の勢力を背景に倒閣、自身の復活を狙って動くことでしょう。

核合意協議は時間切れか

イランでは6月の大統領選で、保守強硬派のライシ師(60)が当選しました。核合意を結んだロウハニ大統領の国際協調路線に反対しています。

イランの大統領は最高指導者の下で行政を担う立場で、外交方針などは最高指導者に従うしかありません。最高指導者は終身制で、32年間その地位にいるハメネイ師は、イスラム革命の原則堅持を身上とするライシ師を後継者とみているようです。大統領選は、護憲評議会という組織が候補者をふるいにかける仕組みで、今回は600人近くの候補者が資格審査で7人に絞られました。国際協調派や、保守強硬派でもライシ師のライバルになりそうな人物は落とされ、辞退者も出て最後には4人の争いという、いわば出来レース。結果がわかっている選挙に有権者の関心は冷え、投票率は史上最低の49%でした。現体制への支持低下を反映するものでもあります。

ライシ師は、当選後の会見で、核合意について、アメリカが直ちに復帰し、対イラン制裁を全面解除するよう呼びかけました。核合意の立て直しを目指して、ウィーンで間接協議が進められてきました。イランの交渉団長は、8月の新政権誕生前に妥結したいとしていました。しかし、制裁の全面解除を要求するイランに対し、アメリカはウラン濃縮問題などで核合意の完全順守を求めるほか、核合意に関連しない制裁は残すとするなど、対立点が残っています。核協議は、時間切れとなり、反米強硬派のライシ次期政権へ引き継がれることになりました。妥結はいっそう困難になりそうです。もし、核合意が崩壊

すればイランの核開発は無制限となり、中東の軍事 的緊張が高まります。この地域にエネルギー資源を 頼る日本にとっても「対岸の火事」とはいえず、平和 的解決に向け、できる限りの外交努力をすべきだと 思います。

質疑応答

Q:パレスチナ問題では根本的解決を目指すべきだが、イスラエルは何をゴールとしているのか。

A: 自国民の安全確保が目標。戦争やテロの恐怖なく生活できること。パレスチナ人の抵抗を力で抑え込むのではきりがないとして、故ラビン首相が「二国家共存」を選択しました。友好善隣ではなく両民族の分離です。パレスチナ側のゴールは国家独立。これも、イスラエルと仲良くしようというわけではなく、独立独歩でいこうというものです。

Q: ガザに武器を供給しているのはエジプトでは?そのエジプトが停戦に動いたのは矛盾していないか。

A:ハマスを支援しているのは、ムスリム同胞団などのイスラム組織で、エジプトのシーシ政権はこれを弾圧しています。ただし、エジプトはムバラク政権時代からパレスチナとイスラエルの対話働きかけのルートを持っており、今回の動きとなったわけで、政府がハマスを支援しているわけではありません。

Q:アメリカがイランの核開発は問題視し、イスラエルの核は黙認しているのはなぜか。

A:アラブ諸国の中で孤立しているイスラエルの生存のためには、やむを得ないと認めているから。イランとはイスラム革命以来敵対しており、核兵器を持つことを強く警戒しています。国際政治に影響力を持つアメリカの考えが通っているということです。

Q:国連安保理が機能していない。

A:安保理は大国の利害が一致しない限り力を持てませんが、核合意の場合は主要6カ国が参加しているので、国連を中心にアメリカ、イランに働きかけることはできます。イランは制裁解除を望んでいますが、全面解除ができないなら段階的にいくしかないでしょう。

Q:パレスチナ問題で「二国家共存」による解決は 現実的か。

A:では「一国家での解決」は可能でしょうか。出生率が高く多数派となるパレスチナ人を、ユダヤ人主導のイスラエル政府が支配することになると、かつての南アフリカのような「アパルトへイト国家」になってしまいます。パレスチナ人が「二級市民」の処遇を受けるのを危惧します。しかし、イスラエルに極右首相が誕生したことで、「二国家共存」の実現が困難になっています。

出川展恒 (のぶひさ) 氏: 1985年、NHK入局。91~92年テヘラン、94~98年エルサレム、2002~06年カイロの各支局長を経て06年7月から中東・アフリカ・イスラム地域担当の解説委員を務める。現在は解説主幹。

「ガザ戦争」に見るイスラエル・パレスチナ問題の構図

村上 宏一(当法人副理事長・元朝日新聞中東アフリカ総局長)

前号で、イスラエルの建国以来初めてアラブ政党が参加する連立内閣が誕生するか、と書き進めていたところ、原稿の締め切り直前にイスラエルとパレスチナの流血の衝突が再燃。歴史的連立を語る空気は吹っ飛んでしまったと、最後に書き加えました。ところが、イスラエルとパレスチナ自治区ガザを実効支配するハマスとの間で比較的早く停戦が実現すると、その連立が意外にあっさりと成立しました。

イスラエルの内政を揺さぶった「ガザ戦争」は5月中旬のことで、もはや忘れられそうな事件ですが、この展開にはイスラエルとパレスチナの対立の原点とも言える要素が反映されているので、振り返ってみようと思います。

積み重なる「理不尽」の思い

ハマスが放ったロケット弾がイスラエルの住宅 地に落下したのを報じるテレビのニュースが、「平 和に暮らしていた我々をなぜ」と語るイスラエル市民の声を伝えていました。その映像を見た時、筆者は2001年9月の同時多発テロでニューヨークの貿易センタービルが崩壊した時のことを思い出しました。「悪いことをしていないのに、なんで私らが攻撃されるのか」と憤るニューヨーク市民の声。「理不尽な」というその思いは、悲惨な現場の映像を背景に、世界中の視聴者に届けられました。

それを見て思ったのは、「理不尽」の思いはパレスチナをはじめ中東では、人々が日常茶飯事のように抱いているということです。例えば統治者のイスラエルから、許可なく家を建て増したなどの理由でパレスチナ人の家屋が壊されるということがあります。ガザでは2014年夏にも、テロリストを狙ったという砲爆撃で多数の民間人が犠牲になった「戦争」もありました。圧倒的な武力を持つイスラエル軍や兵士の前に、ほぼ一方的にやられるだけの人々の怒りや悔しさの総和は、米国での同時多発テロが引き起こした怒りの総和に勝るとも劣らないでしょう。ただ、1件1件が違う日時、違う場所で起き、1件ごとの犠牲者が少ないためほとんど報じられず、世界に知られないだけなのです。

狙われる東エルサレムの土地

ハマスによるロケット弾攻撃の端緒は、東エルサレムのシェイクジャラというパレスチナ人居住区で起きた民家の立ち退き問題でした。ユダヤ人入植者の組織が土地の所有権はユダヤ人にあると、パレスチナの地の旧支配者オスマントルコ時代の書類なるものを持ちだして訴え、イスラエルの裁判所がそれを認めたのです。

土地の問題は、1948年の第1次中東戦争で多くのパレスチナ人が一時避難のつもりで逃げ出したまま帰れず、難民になったこととつながります。この時、イスラエルが確保した西エルサレムに住んでいたパレスチナ人は、家を失ったままです。ヨルダンが押さえた東エルサレムに住んでいたユダヤ人も家を追われましたが、彼らの多くは西側の元パレスチナ人住居に入ることが認められました。しかしイスラエル政府は、第3次中東戦争で奪った東エルサレ



エルサレム旧市街でイスラエル警察と衝突するパレスチナ人

ムを自国領と宣言すると、じわじわとイスラエル化を進め、旧住民だったユダヤ人の帰還を認めようとしています。一方で、西側住民だったパレスチナ人の帰還権申し立ては認めていません。

また、イスラエルが一方的に自国領と宣言した 東エルサレムのパレスチナ住民は、エルサレム市 当局からなかなか建築許可を取れず、増築するに も不法建築を理由に破壊されるリスクを覚悟しな ければならない現実があります。そんな中で起き たシェイクジャラ問題。パレスチナ人家族の立ち退 きを迫るイスラエル警察に、住民の怒りがぶつけ られました。

交渉の重要課題 「聖地問題 |

ではなぜエルサレムでの問題に、ハマスがロケット弾攻撃で反応したのか。

シェイクジャラ問題は、土地・住宅問題で積み重なった東エルサレムのパレスチナ住民の鬱憤の発火点でした。裁判所の裁定に怒った住民は、抗議行動の制圧に当たったイスラエル治安部隊と衝突。それがエルサレム旧市街に広がり、イスラム教第三の聖地であるアルアクサ・モスクの境内(「神殿の丘」とも呼ばれる)に治安部隊が突入したのです。「聖地を汚された」――これが、イスラム教原理主義組織であるハマスにとってイスラエル攻撃の大きな理由になりました。

この「神殿の丘」はイスラム教指導者の管理下にありますが、ユダヤ教にとっても聖地であるとしてユダヤ人の極右活動家が礼拝を強行しようとし、しばしば緊張が高まる場所。今回の治安部隊

突入に極右ユダヤ人も混じっていたことが刺激を大きくしました。時あたかもイスラム教の断食月。 宗教的熱狂が盛り上がりやすい時期でした。宗教が絡むため、エルサレムの帰属問題は和平交渉の 重要課題であるのに、イスラエルが一方的に東エルサレムの併合を宣言したため、争いの火元の一つとなっています。

さて、ハマスがイスラエル側に放ったロケット弾で、イスラエル市民13人が死亡(うち子ども2人)しました。これに対しイスラエル軍は空爆と地上部隊および海上からの砲撃で猛反撃し、パレスチナ住民256人が死亡(うち子ども66人)、数百のビル、家屋、商業施設が破壊されました。

がれきの上でアピール合戦

死者を出した暴力の応酬を語るには無神経な表現かもしれませんが、この戦争にはアピール合戦の側面があることを指摘せざるをえません。イスラエル側はガザへの攻撃を、ロケット弾攻撃に対する自衛であると弁明しますが、自衛というにはあまりにも多くの死傷者と家屋・施設の破壊をもたらしました。しかし、ハマスを「テロ組織」と指定している欧米諸国などが反論しにくいのを背景に、「テロからの自衛」であるとして、大量破壊を正当化しています。

一方、ハマスは、イスラエルに対する攻撃は宗教 的理由に加え、パレスチナ人の土地を奪うなどのイ スラエルの行為に対する反撃だとしています。しか しロケット弾攻撃は、イスラエルの「対テロ戦争」 という逆アピールに寄与した面の方が強そうです。 そして、このような攻撃はイスラエルの猛反撃を招くことはわかっているはずです。多くの市民の犠牲者をしり目に、イスラエルが勝利を宣言したのに対し、ハマスも「勝った」と言っています。自らの存在のアピールが狙いかとさえ思えてきます。

パレスチナ側では、自治政府を仕切るパレスチナ解放組織の主流派ファタハはヨルダン川西岸にしか影響力を及ぼせず、ガザを支配するハマスはイスラエル側がテロ組織であるとして交渉相手にしません。一体となってイスラエルと和平交渉をする体制ができていないのです。

混在内閣の首相は宗教右翼

ところで、「ガザ停戦」で組閣交渉が再開し誕生したイスラエルの新政権は、アラブ政党が加わったというだけでなく、左派から極右まで、またユダヤ教の教義厳守派と宗教的制約に反対する世俗派が同居するという、かつてない混在内閣です。そして、首相となったのは「ヤミナ」という宗教右派政党の代表ベネット氏です。ヤミナはヘブライ語で「右へ」という意味で、その名の通り右派から極右までの国会議員を抱え、パレスチナ国家には反対、西岸のユダヤ人入植地拡大を支持しています。西岸のイスラエル併合まで言い出しかねない首相ですが、連立内閣には左派やアラブの政党も加わっており、極端な政策を打ち出せばすぐさま分裂すると見られています。危ういバランスの中で、せめて和平の芽がつぶされない状況が続くことを願うばかりです。

認定NPO法人聖地のこどもを支える会の

会員になりませんか?

さまざまなプロジェクトをはじめ、当会の活動・運営を総合的に 支えていただく会員制度。あなたのご意見が、平和のつくり手を 育てます。 事務局までお気軽にお申し出ください。

正会員 個人 年額 12,000円/1口

学生 年額 6,000円/1口 賛助会員 年額 6,000円/1口

正会員は、当法人の総会等での議決権を行使することができます。

支援金の自動払込みサービス

ご好評を頂いている自動払込みサービス。まだ の方はぜひご利用ください。

- * 郵便振替、クレジットカード、どちらでも可能です。
- *銀行や郵便局へ、毎回払込みに行く手間が省けます。
- * いつからでも、いくらからでも 簡単に始められます!

お申込み・お問合せは

当法人事務局 03-6908-6571 または 042-636-9218 (中山)

2021年度 総会のご報告

当法人の2021年度通常総会が去る6月27日(日)に開催され、 2020年度の事業報告書と決算書、2021年度事業計画書と予算書が 承認されるとともに、2021年度~2023年度の役員が選任されました。

2020年度活動計算書

2020年4月1日から2021年3月31日まで			
【経常収益】			
【受取会費】			
正会員受取会費	499,000		
	54,000	553,000	
【受取寄付金】			
受取寄付金	10,860,935		
施設等受入評価益	0		
ボランティア受入評価益	0	10,860,935	
【受取助成金等】			
受取助成金	7,304		
受取補助金	0	7,304	
【事業収益】			
参加料金収益		0	
【その他収益】			
受取利息	18		
為替 差益	1,617		
雑 収 益	2,140,000	2,141,635	
経常収益 計		13,562,874	
【経常費用】			
【事業費】			
(人件費)			
給料 手当(事業)	1,292,248		
役員報酬 (事業)	58,800		
通 勤 費(事業)	36,823		
決定福利費 (事業)	198,716		
退職金(事業)	70,700		
人件費計	1,657,287		
(その他経費)			
業務委託費			
諸 謝 金(事業)	315,411		
水道光熱費(事業)	115,057		
地代家賃 (事業)	1,050,000		
印刷製本費(事業)	262,986		
会 議 費(事業)	11,287		
旅費交通費(事業)	1,006		
旅費海外(事業)			
車両費(事業)			
通信運搬費(事業)	168,608		
消耗品費(事業)	34,508		
賃借料(事業)			
施設等評価費用			
租税 公課(事業)	440		
支払手数料 (事業) 支払助成金現地教育支援)	440		
- 文払助放金規地教育文援/ その他経費計	3,336,270 5,295,573		
	3,293,373	6 052 960	
争未貸 訂		6,952,860	

(単位:円)

		(+1\(\frac{\pi}{2}\).11/
【管理費】		
(人件費)		
役員 報酬	781,200	
給料 手当	1,198,082	
法定福利費	85,164	
退職給付費用	6,000	
退 職 金	30,300	
通勤費	78,689	
人件費計	2,179,435	
(その他経費)		
印刷製本費		
会議費	1,644	
旅費交通費	3,630	
通信運搬費	434,458	
消耗品費	135,966	
水道光熱費	49,309	
地代家賃	450,000	
修 繕 費	22,000	
広告宣伝費	0	
研 修 費	12,000	
諸謝金	327,779	
諸 会 費	40,000	
租税 公課	594	
支払手数料	232,668	
為替 差損	0	
雑費	0	
その他経費計	1,710,048	
管理費 計		3,889,483
経常費用 計		10,842,843
当期経常増減額		2,720,531
【経常外収益】		
前期損益修正益		98,000
経常外収益 計		98,000
【経常外費用】		
前期損益修正損		59,796
経常外費用 計		59,796
税引前当期正味財産増減額		2,758,735
当期正味財産増減額		2,758,735
前期繰越正味財産額		327,198
次期繰越正味財産額		3,085,933

2021~2023年度当NPO役員

井上 弘子 再仟 中山 夕里亜 理事 再任 田制則子 再任 理事 佐藤 克裕 理事 再任 村上 宏一 理事 再仟 福島 貴和 再任 理事 平木 朋世 再任 理事 理事 内藤 徹 新任 日向寺 司 再仟 監事

支援団体·支援者の お名前

支援団体

あさぬま犬猫病院 岡本由美子

医療法人 かどもと眼科医院

栄光学園 愛の運動委員会

援助修道会六甲修道院

大阪聖ヨゼフ宣教修道女会

幼き聖マリア修道会

オタワ愛徳修道女会

学校法人育英学園 目黒サレジオ幼稚園

カトリック足立教会

カトリック葛西教会「ゆりの会 |

カトリック片瀬教会

カトリック・カルメル修道会

カトリック北広島教会

カトリック金剛教会

カトリック鷺沼教会古着プロジェクト

カトリック東京カルメル会女子修道院

カトリック松戸教会コスモスの会

カトリック松原教会

カトリック瑞浪教会

カトリック三ツ山教会

カルメル会修道院

吉祥寺教会聖地のこどもを支える会

汚れなきマリアのクラレチアン宣教修道女会

坂出聖マルチン病院

サレジアン・シスターズ管区本部

シオンの斤 レデンプトリスチン修道院

シト―会那須の聖母修道院(那須トラピスト修道院)

宗教法人カトリック 至聖贖罪主修道女会

宗教法人カトリックイエスズ会

宗教法人聖心会

守護の天使の姉妹修道会

殉教者聖ゲオルギオのフランシスコ修道会

スヴェール愛徳修道会

聖アンナこどもの家 園児一同

聖クララ会修道院

聖心の布教姉妹会

聖フランシスコ修道院

聖フランシスコ病院修道女会

聖ベネディクト女子修道院

聖母奉献修道会

天使の聖母トラピスチヌ修道院

東京聖十字教会

燈台の聖母トラピスト修道院

ドミニコ会聖ヨゼフ修道院

日本キリスト教団 白鷺教会CS

日本キリスト教団 巣鴨ときわ教会

日本基督教団 まぶね教会

ヌヴェール愛徳修道会

ノートルダム学院小学校ボランティアサークルリーダー 高宮琢子

ノートルダム修道女会

福音史家聖ヨハネ布教修道会

ベタニア修道女会 聖ベルナデッタ修道院

マリアの宣教者フランシスコ修道会

マリアの御心会 茂原共同体

山口カルメル会修道院

横浜雙葉小学校父母の会

レデンプトール修道会内 絶えざる御助けの聖母信心会·事務局

(57団体 内匿名希望1 順不同)

支援者

HARVEY PAUL A. S.	芦川恵美子	飯田ルナ
相葉敬子	安達結美子	井口実紀
青山博子	阿部圭子	池永廣美
青山美恵子	天野直秀	石井直子
赤崎克俊	天野眞理子	石黒亮
秋山佳穂	天野祐子	石田知子
浅井芳和	荒川淑	石澤雅士
浅井明子	有田美江	石原淳一
浅沼誠子	安藤眞樹	磯田幸子

T-000		4E-	ICD = 7	<u> </u>
磯部雅子	大岡よし江	神原ちず子	坂口泰子	高橋 佳代子
磯部起与子	大蔵俊三	金喜貞	坂本 章	鷹觜達衛
磯部裕子	大澤由紀子	金沢良子	坂本雄郎	高橋ひろみ
板橋虎徹	太田晴子	加納貞彦	佐々木ふみ子	高橋裕子
市川黎子	大谷郁子	鎌田まさ子	佐々木郁子	高橋和子
伊知地広美	大谷恵美子	鎌田英明	佐々木俊之	大和四夫
井手公平	大西美恵	川口節子	佐々木裕美	伊達由美子
伊藤勝子	大西茂雄	川本和子	佐多保彦	田川照子
伊藤多恵子	大森いくえ	木内一実	薩田寿隆	柘植薫
伊藤ちあら	大八木氾子	菊池いつ子	里井健勲	田口加寿子
伊藤友香	岡晶子	北受静	佐藤悦子	田口幾子
伊藤夏代	岡島順子	北楯暢子	佐藤光子	竹井雅子
伊藤望	岡本みどり	北原豊子	佐藤克裕	武田英夫
伊藤光子	小川千枝子	木村護郎クリストフ	佐藤俊彦	竹田美恵子
稲葉猛典	翁羽翔	木村浩之	佐藤朝子	竹谷純子
稲嶺真澄	奥村聡	木村聡子	佐藤保正	竹脇美帆子
井上ちひろ	尾崎一三	木村靖子	郷家かな江	田制則子
井上志帆子	尾崎裕子	喜山聖子	佐野彰	城トミ子
井上千賀子	小田淳	国峰恵子	佐野澄子	立原美恵子
井上弘子	小田功司	久保久子	塩谷惇子	立林久美
今井弘美	小野修	熊谷マリ子	島田みち子	立脇和夫
今村宏子	小野寺久仁子	粂田治夫	下路利恵子	田中さわこ
今村錬	小山田匡宏	クラウディオ・ジャネシン	宿澤恵子	田中弘子
岩崎守	恩地節子	黒瀧津哉子	新谷真理子	田中淑子
岩崎正幸	海保やすよ	黒田道子	菅野滋子	田中節子
岩下直子	柿崎ゆか子	胡美喜子	助廣弘子	田中智子
岩田卓三	角田和子	小久保かつ	鈴木賢治	田中博
岩田彬人	笠井勝子	小坂田さち子	鈴木成人	谷口寿美枝
岩永千代子	葛西咲子	小塩恒子	鈴木登喜子	谷弘子
岩本憲嗣	樫谷健	小西一枝	鈴木敏博	谷山正恵
植村淳子	柏貴夫	小西羊一	鈴木典子	田村奈巳
海堀真紀	柏恵津子	小谷野泰	須田茂乃	田村富士子
梅原彰	片岡万里	小林惇	関安幸	塚田道子
荏原えり	加地貴美子	小林美沙子	関口素子	槌本和子
栄林ヒサ子	勝原孝子	小林麗子	髙井真悟	土屋美和子
胡美喜子	加藤まゆみ	後藤幸	髙馬和子	天明恭子
遠藤恵美子	加藤喜代子	後藤秀次	高岡節子	戸井利子
遠藤香恵子	加藤恵子	近藤緑	高島友子	富崎之夫
遠藤浩一	加藤健三	齊藤直子 二	髙島文枝	富田道代
遠藤久夫	加藤和子	三好和枝	高潮紀子	サイトウタツナリ
及川治雄	門口敏子	坂井陽子	高田世津	内藤将子
大岩亜紀子	門倉昭博	榊原祥子	高野千草	中井さつき
/ ヘクー ユエーパレ 」	1 NDAMA	ב דו אואדוו	I리되 I +	171000



中里光代	橋本和子	堀秀樹	村上宏一	山本強
中島紀史子	波多江優子	堀正巳	村上則子	山本幸子
中島聖子	服部英子	堀田静穂	望月美代乃	山本浩
中島敏夫	花岡嘷	本田江身	本橋淑子	横見晶子
中谷美智子	花田俊信	本間攝子	森川久美子	横道昭光
長坪 光	濱中智子	馬越由美	守口毅	横山真希子
永野明子	林一江	真下まゆみ	森惠子	吉川英子
永渕昭枝	林香保里	桝谷紀子	森達哉	吉田邦子
中村季子	林裕美子	増満由美子	森田隼人	吉田恵子
中村寿美	葉山文子	松崎治男	森谷啓子	吉田とし子
中本徹信	早川昌江	松尾沢子	森本明子	吉田友一
中山宏	原科節子	馬渡二嘉	薬師寺陽子	吉田良子
中山泰羊 喜祈	半田和巳	水野眞由美	矢島友子	吉武尚子
中山夕里亜	平木朋世	溝口泰子	矢谷啓子	米嶋洋子
永吉恵子	古屋恵子	溝口由美子	安田美知子	米林昭枝
奈良美涼	深田莉映	三島八重子	山内春治	ラザフォード貴美子
新里苗子	深田久子	三宅哲子	山下るみ子	渡部朋子
西勝健夫	福井潔	宮下幸恵	山下義文	渡辺上
西田百合子	福崎順栄	宮川園絵	山下光子	渡邉公伸
西原和子	福田幸子	宮倉満子	山田康子	渡邊こずえ
西村拓生	福田青柳	宮野美智子	山田千秋	渡部満
野川啓子	藤井素子	向井貴代美	山田百華	渡辺陽子
野坂静子	藤田美智子	向井純子	山田涼華	渡邊禮子
野田健太郎	藤原伸子			
野田征子	藤原眞理子		(363名 内)	匿名希望6 順不同)
野田由利	藤村栄三郎		(000 1 1)	
野中あゆみ	淵上恂子			

* イスラエル・パレスチナでの新型コロナ感染が収まらず、また郵便 事情の厳しさもあり、エルサレムの連帯事務局からの報告が遅れ ています。昨年度、皆様のご支援を届けることができた生徒数・学校 名は、次号でご報告させていただきます。ご了承ください。

遺贈・相続寄付をご検討の方へ

あなたの財産、そして大切な方からの遺産を イスラエル・パレスチナの子どもたちの教育支援に 役立てませんか?

蕪木利夫

保尾真紀

星昇次郎

星村美絵子

野村智美

野村泰樹

白水明代

箱田昌平

当法人では遺産・相続財産のご寄付も、ありがたく 頂戴しております。将来、平和の担い手となるイス ラエル・パレスチナの子どもたちの教育支援や国際 交流事業などの活動に使わせていただきます。 聖地のこどもを支える会は、 認定NPO法人です。 ご遺族による相続財産からのご寄付は 税制優遇の対象となります。

遺贈・相続財産の寄付に関心のお持ちの方は、 当法人事務局までお問い合わせください。

TEL.03-6908-6571

コロナ禍でいつもの賑わいがなくなったラマラ中心部の風景です。





▲ 仲の良い老夫婦



▲ 伝統的な紅茶売りのおじさん



▲ アボカド売り



▲ 5月の紛争の発端となったシェイクジャラ (p.6参照) の住民 を支援するために集まったエルサレム各教会の指導者たち。



▲ 当NPOの支援校の一つで、イブラヒム神父が校長をしている テラサンクタ学院の火事 (エルサレム)



フランシスカンマーチ (p.1参照) で、イスラエル北部、レバノン との国境の村にたどり着いた若者たち。

街で出会った子どもたち





写真撮影 ダリーヌ・ラマ、ヤクーブ・ガザウィ